

各計画の中間のまとめに関する意見・質問に対する回答

区分	該当ページ	質問内容	回答
地域共生社会のさらなる推進	高齢者福祉計画P75 障害者計画P43	地域共生社会のさらなる推進をするには、そこで勤務する職員についても、クロスオーバーに活動する能力が求められます。そのための研修などはどのように実施していく予定でしょうか。	<p>研修の実施方法等につきましては、高齢・障害の意見交換会やパブリックコメント等で頂いたご意見などを踏まえ、最終的には、事業所間の交流や研修会を開催し、各種サービスが協働できるような仕組みづくりを検討していく中で決定していきたいと考えております。</p> <p>また、いきいきサロン事業につきましては、地域住民団体やNPO法人等が概ね65歳以上の高齢者を対象に、高齢者の社会的孤立感の解消、心身の健康維持、要介護状態の予防、住み慣れた地域での在宅生活の継続支援を図ることを目的として実施している事業となっております。多世代・共生社会プログラム(高齢者と乳幼児若しくは若者又は65歳未満の障害者手帳を所持する者若しくはこれに準ずる者との交流を図る取組み)を実施した場合に補助金の加算が受けられるなど、障害者も一緒に参加する取組みを行っておりますが、具体的な協働の方法の案などがあれば、意見交換会の中でもご意見頂ければと思います。</p>
	高齢者福祉計画P75 障害者計画P43	桜堤地区における地域完結型地域共生社会の実現に関して、具体的なデザインについて意見交換したい。 ワンストップ型の総合相談窓口機能のモデルとして試行してはどうかと考える。	
	高齢者福祉計画P10 障害者計画P43	いきいきサロン事業は、障害も合同で取り組める余地があるのでしょうか？ 例えば、ヘルパー事業所と共同での取り組み、高齢の親とひきこもりの子の参加(8050問題対策にもなる)など。	

各計画の中間のまとめに関する意見・質問に対する回答

区分	該当ページ	質問内容	回答
福祉総合相談窓口(仮称)設置や福祉コンシェルジュ(仮称)配置の検討	高齢者福祉計画P78 障害者計画P47-48	福祉総合相談窓口(仮称)や福祉コンシェルジュ(仮称)が対応する問題は、非常に幅広いことが予想されます。その場合、高齢、障害だけではなく、低所得者対策、教育、雇用なども含む公的な制度に加え、地域のボランティアやNPOなど多様な社会資源の活用が求められます。その社会資源の情報収集と連携などのシステムづくり(フローチャート等)の見直しなどがあれば、教えて下さい。	「社会福祉法」の一部改正を受け、市では、地域における包括的相談体制の強化や関係機関による一体的支援など、「重層的相談支援体制の整備」について取組みを進めていくこととなりました。 従来から関係機関との連携により、相談支援体制の充実とネットワークの強化を図ってきましたが、いわゆる「8050問題」や「引きこもり」など、相談先が分かりにくく、かつ課題解決にあたっては、分野横断的な対応が求められる相談に対応するため、福祉総合相談窓口(仮称)の設置や福祉コンシェルジュ(仮称)の配置について、検討を行うこととしました。 本事業を実施するにあたり、「どこに相談してよいか分からない」という理由で、どこにも相談できず、地域での孤立を防いでいくため、どのような相談でも気軽に相談できる窓口(ワンストップ型窓口)の設置と適切な人員配置、市民への周知・啓発が大切と考えております。 複雑・多様化した相談支援ニーズに対応するため、庁内連携組織である「健康福祉実務担当者調整委員会」を活用し、関係各課が情報共有を図りながら、各分野の職員が積極的に関与していくなど、「連携・伴走型」の支援体制を目指していきます。 今後は、庁内の組織体制をはじめ、相談窓口の名称や設置場所など、委員会などのご意見等を踏まえ、検討を行っていきます。
	高齢者福祉計画P78	重層的な相談支援体制の構築・強化➤大変良いことだと思いますが、何処に相談すればよいか分からないことは、福祉だけではないと思いますので、さらに拡充して全庁としてとらえては如何でしょうか。	
	高齢者福祉計画P78 障害者計画P47	ワンストップ型の総合相談機能である福祉コンシェルジュの配置に関する具体的なアイデアについて意見交換したい。 両委員会で「相談/相談支援」の定義や射程範囲(イメージ)の共有を図る機会としたい。	
	高齢者福祉計画P78 障害者計画P47	福祉総合相談窓口と福祉コンシェルジュについて、どのような場所に窓口を設置しどのような人がコンシェルジュになることを想定していますか。	
	高齢者福祉計画P78 障害者計画P47	福祉総合相談窓口と福祉コンシェルジュについて、高齢、障害分野だけでなく他分野との協同で進める方向性でお願いしたい。	